



国際数理学協会会報

No.58/ 2008.7

編集委員：藤井正俊(委員長)、藤井淳一

目次

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| * MIA2008 に参加して | * page charge 大幅減額のお知らせ |
| * 2008 年度年会とプログラムのお知らせ | * 機関会員募集 |
| * 第 7 回最適化の手法と応用に関する国際会議 | * 正会員申込用紙 |
| * 御寄付の報告 | * 会員募集 |

* MIA2008 に参加して

瀬尾 祐貴 (芝浦工業大学工学部)

この国際研究集会は、去る 6 月 8 日から 14 日まで、クロアチア(現地ではクロエシア)の古都スプリトの郊外トロギルにある Hotel Medena で開催された。研究集会名の MIA はこの縮約形であるが、全く同名の国際数学雑誌に由来するという方が妥当かもしれない。日本からは藤井正俊先生(大阪教育大)と私が参加した。この国際研究集会は、Zagreb 大学の Josip Pevcari'c 教授の還暦を祝って行われたものである。

私たちは Pevcari'c 教授自身から直々に招待のメールを頂いた。私は 3 年前、彼等との作用素不等式に関する共著：

T.Furuta, J. Mi'ci'c Hot, J. Pevcari'c and Y. Seo: Mond-Pecaric Method in Operator Inequalities/ Inequalities for bounded selfadjoint operators on a Hilbert space, Element, Zagreb, 2005.

を書いたこともあって、是非とも参加しようと思っていた。

しかし、参加について最初の難関は、登録料 200 ユーロの払い込みである。振込料が異常に高い。そこで、現地で直接支払うことで了解を取った。次に航空券の手配である。Trogir へは、Split というローカル空港が最寄りのそれとなる。しかし、成田や関空からの直行便はなく、クロアチアの首都ザグレブ経由かヨーロッパ経由になるのだが、気づいたときにはどの便も満席で予約が取れない。結局、中部国際空港発着のルフトハンザにしたのだが、フランクフルトで行き帰り 1 泊ずつしなければならなかった。

それでも幸いなことに、Split に到着すると空港で関係者が待機していて、車でホテルまで連れて行ってくれた。私たちは、自力で行かねばならないのではないかと腹をくくっていたのだが、ホテルには、8 日の昼ごろに着いた。これまで、共同研究や本を書くために E メールで情報交換はしていたが、ランチの席上で、初めて Pevcari'c 教授本人に会うことができた。実に精悍で、バイタリティあふれる風貌であった。日本から持ってきたお土産の淡い桜模様の扇は、気に入ってもらえたようである。ランチの後は、藤井先生とアドリア海沿岸を 1 時間ほどのんびりと散策して過ごし、明日からの集会に備えた。

研究集会の Abstract Book に、Pevcari'c 教授の Preface が載せられている。それによると、現在彼の所属する Zagreb 大学には 1987 年に着任しており、数学の正教授である。2000 年からは Croatian Academy of Science and Arts の正会員であり、New York Academy of Science のアクティブなメンバーでもある。彼はこれまでに 16 冊の教科書、700 編余りの数学論文を著しており、不等式の理論の leading expert である。彼の国際性は、約 150 人、26 カ国の数学者との共著の仕事があることから明らかである。また、幾度となく国外の大学の客員教授も務めている。(聞き違いでなければ、彼はパキスタンの数学発展のため、昨年一年間、当地に滞在したとのことである。)さらに彼は、この研究集会と同名の数学雑誌 MIA の創始者であり、編集委員長である。もちろん、その他の数多くの国際研究雑誌の編集委員でもある。

このように、幅広い交友関係を反映して、150人を上回る参加者があった。講演は、1時間の招待講演が15と、一般講演134から成っている。朝9時から招待講演が2本、30分のブレイクの後、3本立ての平行セッションが1時間半、そして昼食を含めて1時半から4時まで昼休み。再開後は、1つの招待講演と平行セッションで8時前に講演は終了する。その後、ディナーで一日の日程が完結する。殆どの参加者がホテルに泊まっているので可能なスケジュールではあるが、かなり変則ではないかと思ったものである。しかし、アドリア海を見ながらの日々は格別なものであった。

最後に、招待講演のリストを掲載して、この報告を閉じたいと思う。

Peter S. Bullen: The work of Professor Pevcari'c.

Lars-Elik Persson: My life with Hardy and his inequalities.

Alois Kufner: The role of parameters in Hardy-type inequalities.

Vladimir D. Stepanov: Weighted inequalities for integral operators with variable domain of integration.

Zsolt P'ales: Comparison of generalized quasi-arithmetic means.

Andr'as Pr'ekopa: Inequalities for discrete higher order convex functions: a survey.

Lech Maligranda: Real and complex operator norms between quasi-Banach L_p - L_q -spaces.

Frank Hansen: Operator and trace inequalities with applications.

Ingram Olkin: Moment inequalities, mean inequalities, matrix inequalities and probability inequalities.

Roland Glowinski: Numerical solution of a non-smooth eigenvalue problem.

Sever S. Dragomir: Accurate approximations of the Riemann-Stieltjes integral via theory of inequalities.

Vitor Burenkov: Sharp multidimensional multiplicative inequalities for weighted Lebesgue spaces with homogeneous weights.

Gord Sinnamon: Bootstrapping weighted Fourier inequalities.

Ivan Peri'c: Mixed means, Hardy-type inequalities and maximal functions.

Marko Mati'c: On Euler-type identities and applications.

* 2008年度年会とプログラムのお知らせ

国際数理科学協会年會を下記の日程、場所で行います。

日程：平成20年8月12日(火)9時30分

場所：大阪府立大学学術交流会館(中百舌鳥キャンパス)多目的ホール

議題：名誉会員の推薦。

また当日、下記の研究部會が開催されます。研究部會は開放されていますので、ご自由にご参加ください。なお、この會報が発行されるまでに分かっているプログラムは次のとおりです。なお、2008年3月号で栗木進二主催で「統計的デザイン、組合せ的設計とその周辺」という研究名で行う予定の研究集會は都合により中止となりました。お知らせいたします。

(1) 研究部会名：統計的推測と統計ファイナンス（小ホール）

世話人：地道正行（関西学院大学商学部）
熊谷悦生（大阪大学大学院基礎工学研究科）

連絡先：地道正行（jimichi@kwansei.ac.jp）

午前の部

- 10:00～11:00 「Support Vector Machine と線形識別モデル」
村上 卓（関西学院大学商学研究科）
- 11:00～12:00 「An Introduction of Cyber Security: A Machine Learning-based Approach」
宮本大輔（奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科）

午後の部

- 13:00～14:00 「タイトル未定」
藤井孝之（統計数理研究所）
- 14:00～15:00 「R Commander、HTA、初心者に優しいツール開発の提案」
舟尾暢男（武田薬品工業）
- 15:00～16:00 「タイトル未定」
熊谷悦生（大阪大学大学院基礎工学研究科）
- 16:00～17:00 「Asian option の近似的な価格付けについて」
林 利治（大阪府立大学大学院理学系研究科）

(2) 研究部会名：確率モデルと最適化（多目的ホール）

世話人：寺岡義伸（近畿大学経営学部）
北條仁志（大阪府立大学大学院理学系研究科）

連絡先：寺岡義伸（y-teraoka@bus.kindai.ac.jp）
北條仁志（hojo@mi.s.osakafu-u.ac.jp）

- 13:30～13:50 「鉄道事業における数理的計画問題」
奥山 亮（大阪府立大学大学院理学系研究科院生）
北條仁志（大阪府立大学大学院理学系研究科）
- 13:50～14:10 「再配分を考慮に入れた新施設の配置」
白江彰之（大阪府立大学大学院理学系研究科院生）
北條仁志（大阪府立大学大学院理学系研究科）
- 14:20～15:00 「Blotto ゲームについて」
寺岡義伸（近畿大学経営学部）
林 芳男（近畿大学経営学部）
- 15:10～15:50 「大規模小売業及び小規模小売業における価格と立地競争に関する一考察」
川勝英史（流通科学大学情報学部経済情報学科）
三道弘明（大阪大学大学院経済学研究科）
- 16:00～16:40 「ブレーステーション3の価格設定に関する静学的分析」
三道弘明（大阪大学大学院経済学研究科）

なお、この研究集会は、日本オペレーションズ・リサーチ学会「不確実性環境下での意思決定の理論と応用」研究部会（担当主査：菊田健作，幹事：川勝英史）との合同で開催されます。また、この研究集会に Sobar system を使った遠隔 site からの無料参加が出来るようにする予定ですのでご希望の方は scm4j@jams.jp 間でご連絡下さい。

* 第7回最適化の手法と応用に関する国際会議

The 7th International Conference on Optimization: Techniques and Applications (ICOTA7)

日程：平成19年12月12日(水)～平成19年12月15日(土)

場所：神戸国際会議場(神戸市中央区)

参加人数：国内95人、国外173人(31カ国)、合計268人

テーマ：

最適化の理論とアプリケーションに関する現状の研究成果や最新のソリューション、さまざまな観点からの研究活動、アイデアや経験などの情報を、大学関係者、研究者、ソフトウェア開発者、実務者などと共有し、議論を行う。

会議の経過及び成果：

2007年12月12日には事前登録者の受付とレセプションを行った。12月13日の午前には大会組織委員会 Co-Chair の甲南大学の岳 五一教授(Wuyi Yue)によるオープニングセレモニーが行われた。さらに、神戸市国際文化観光局 局長 大森伸一局氏の挨拶に引き続き、Ya-xiang Yuan 教授の「Subspace Methods for Large Scale Nonlinear Equations and Nonlinear Least Squares」と題したプレナリー講演、Kristin P. Bennett 教授の「Optimization and Machine Learning」と題したプレナリー講演、Louis Caccetta 教授の「Computational Methods for a Class of Discrete Valued Optimal Control Problems」と題したプレナリー講演を行った。さらに、午後には、7つの会場に分かれて16個のスペシャルセッションを行った。

12月14日の午前には、Francisco Facchine 教授の「Generalized Nash Equilibrium Problems」と題したプレナリー講演、Kalyanmoy Deb 教授の「A Robust Evolutionary Framework for Multi-Objective Optimization」と題したプレナリー講演、Satoru Fujishige 教授の「Zonotopes and the LP-Newton Method for Linear Programming」と題したプレナリー講演を行い、午後には、再び7つの会場に分かれ、15個のスペシャルセッション、5個のジェネラルセッションを行い、さらに、Akihiko Torii 氏の招待講演も行った。最終日の12月15日には、午前・午後とも7つの会場において、16個のスペシャルセッション、5個のジェネラルセッションを行った。

いずれの講演会場でも最適化の手法

と応用に関する先端的・意欲的な研究が合計200件以上講演され、熱心な議論と有意義な交流が行われた。2010年に上海で開催される次回のICOTAへの橋渡しの役割を果たすことができた。

本国際会議は(以下、順不同)、日本建築学会、電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、国際数理科学協会、計測自動制御学会、日本機械学会、日本応用数学会、日本計算工学会、システム制御情報学会、Research Association of Mathematical Programming (RAMP)などの日本の各学会・組織だけでなく、Hong Kong Operational Research Society、Korean Institute of Industrial Engineers (KIIE)、Operations Research Society of Taiwan、The Operations Research Society of China、The American Institute of Mathematical Sciences、The Australian Society for Operations Research、The Korean Operations Research and Management Science Society (KORMS)などの国際的な学会から協賛いただき、それらの学会が管理・発行する媒体を通じた本国際会議の広報をしていただいた。また、その広報を通じて、多数の投稿・参加をいただき、関連学会とともに、国際会議のアクティビティ向上に努めた。

一方、産業界からは、株式会社 数理システム、サイバネットシステム株式会社、シーディーアダプコジャパン、エンジニアス・ジャパン株式会社の各社から協賛をいただき、国際会議の会場内に展示ブースをご出展いただいた。展示においては、研究上の応用に関して、それぞれの企業の製品に興味を示した参加者と展示者との間で熱心なディスカッションが行われ、有意義な展示が実現できた。

関西の中核都市である神戸で開催することにより、国外者に対する関西地域の認知向上が図れた。さらに、国際会議の運営に対し、神戸 SGG クラブのボランティアに通訳のお手伝いをいただき、地域社会との交流・貢献が行えた。また、神戸地元の甲南大学の学生諸君に会議における各種役割を担いいただき、それぞれの場で活躍してもらった。それにより、学生には最先端の研究発表の一端に触れるだけでなく、海外から参加者とコミュニケーションをする機会を得ることができ、学生の資質向上に役立てることができた。

また、会議終了後の12月16日には京都へのエクスカージョンを実施し、会議参加者間の親睦を深めるとともに、空港のある大阪地域、国際会議が開かれた神戸地域だけでなく、京都地域の魅力も感じてもらうことができ、関西地域での今後の研究交流の活性化および拠点づくりに貢献することができた。

*** 御寄付の報告**

Bylaws2007(July)の賛助会員制度(Contributing Member)が発足いたしました。御寄付頂いた方の御指示に従い、各基金による事業の推進を致します。一口1万円より何口でも、また一口未滿の御寄付も有難くお受け致しております。

右記の郵便振替口座にてお受け致します。 **00960-3-206607 国際数理科学協会**

基金の用途について下記よりお選び下さい。

(I) ISMS 授賞基金

ISMS 賞、功力賞、北川賞についての授賞メダルの作製、受賞者への送付の費用等授賞に関する費用に支出

(II) 国際研究交流基金

海外及び国内の研究集会参加 site の会場費、研究交流設備の使用料の支出

() Notices(article)、SCMJ(Plaza)等への Invited Authors に対する通信費

() ISMS 国際研究集会での Keynote Speaker の、出席 site までの交通費

() 用途に指定はしない

猶、御寄付の種類は、御寄付の累計額が

(1) 50 万円(又は\$5000)以上

(2) 10 万円(又は\$1000)以上

(3) 5 万円(又は\$500)以上

(4) 1 万円(又は\$100)以上

(5) 1 万円(又は\$100)未滿

の 5 種類とし、感謝状を贈呈すると共に御氏名を(匿名希望の方は除き)www.及び会報、Notices 欄に掲載させて頂きます。国際数理科学協会 数理科学推進基金に御寄付頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。会報 57 号掲載以降に御寄付頂いた先生方です。

2008 年 6 月 長尾 壽夫 先生・・・・・・・・・・ ¥100,000

匿名希望の先生・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥27,190

*** Page Charge の大幅減額のお知らせ**

今年一月より page charge の改定がありました。それは従来のもとは大きく異なるものです。そこで再度掲載いたします。端的に言うと大幅な discount です。従来のように名称として page charge を用いますが、それは組版代及び別刷代(20部)であり、特段投稿料というものではありません。猶従来の様に、審査は早く、掲載には時間を取らない協会の雑誌"Scientiae Mathematicae Japonicae"に是非投稿を御願います。会員の方で御存知ない方もおられると思います。そこで、ここでその違いをお知らせします。

従来の page charge per printed page は下表の通りです。

	ISMS members	Non-members
Paper:P	¥3,850 (US\$35, €28)	¥4,450(US\$43, €35)
Tex:T	¥2,200 (US\$18, €14)	¥2,800(US\$26 €21)
ISMS style: Js	¥1,100 (US\$8, €7)	¥1,700 (US\$16 €14)

この度改定した新 page charge の表は下です。猶、論文が掲載される事が決まりましたら、連絡費、抜刷送料の事務処理として、一編について¥1,000 及び組版に次を請求させて頂きます。下の表を御覧になるとお解かりのように、投稿原稿の種類により随分と費用が異なりますので、出来れば協会指定の Js (ISMS style file) で投稿を御願致します。また、会員になると更に discount があります。これを機会に皆様方の更なる投稿をお待ちしております。

*** 機関会員募集**

機関会員の特典としては

- (1)本屋より SCMJ を購入すると、print 版 45,000 円であるが、機関会員になると、print 版 33,000 円で **online も見ることができます。**
- (2)会員でない 2 名の方を準会員として登録することができます。これにより、page charge (別刷代金) が会員と同じ扱いになります。

	ISMS members	Non-members
p	¥ 3,500 (US\$35, € 23)	¥ 4,000 (US\$40, €27)
Tex	¥ 2,000 (US\$20, € 14)	¥ 2,500 (US\$25, €17)
LateX2e, LaTeX	¥ 700 (US\$ 7, € 4)	¥ 1,000 (US\$10, € 7)
Js (ISMS style file)	¥ 500 (US\$ 5, € 3)	¥ 800 (US\$ 8, € 5)

- (3)上の準会員 2 名は online で SCMJ を見る事ができます。
- (4) Net を用いて国際研究集会を催す時、アナウンス、アブストラクトの作成などお助けいたします。大学、研究所等が協会から SCMJ 誌の直接購入すると、今年から online も無料で見るできるようになりました。
- 機関会員の申込用紙です。適当にお使い下さい。

Application for Academic and Institutional Member of ISMS

Subscription of SCMJ	<input type="checkbox"/> Print + Online (¥33,000, US\$300)
University (Institution)	
Department	
Postal Address where SCMJ should be sent.	
E-mail address	
Person in charge	Name: Signature:
Payment Check one of the two.	<input type="checkbox"/> Bank transfer <input type="checkbox"/> Credit Card (Visa, Master)
Name of Associate Members	1.
	2.

上にも書きましたように、2006 年より発効の機関会員制度により各機関会員に所属の研究者 2 名を会費無料で準会員として登録しますと、準会員が SCMJ に accept された論文を掲載するときの page charge (別刷代金) は会員と同額とすることにしました。

この新しい制度の機関会員の P.R.を、日本国内外(BRICS 諸国など)400 大学に向けて、昨年 1 月から始めています。同時に今迄の SCMJ 投稿者で会員でない方、また、個人会員および(機関会員の)準会員加入の P.R.も始めています。

両者の P.R.について会員の御支援(P.R 先大学の教員の方の名前ご連絡頂く)を御願する次第です。

* 正会員入会申込用紙

個人会員の特典としては

- (1) online で SCMJ を見ることができます。
- (2) 論文の掲載時に page charge(別刷代金)が随分と安くなる。
- (3) Net を用いて国際研究集会を催す時、アナウンス、アブストラクトの作成などお助けいたします。6,000 円を支払うと、hard-copy の SCMJ が一年を通じて手に入ります。
- (4) 10 年間個人会員を続けると、国内会員は 70,000 円、外国会員は US\$600、途上会員は US\$500 を支払うと生涯会員となれます。

2008 年度からの会費

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度 A 会員	¥9,000	US\$75, €60	US\$45, €36
3 年 A 会員	¥24,000	US\$200, €160	US\$117, €93
単年度 S 会員	¥5,000	US\$40, €32	US\$27, €21
3 年 S 会員	¥12,000	US\$100, €80	US\$71, €57
生涯会員	¥90,000	US\$740, €592	US\$616, €493

日本語が出来る方の入会の申込用紙です。また、英語版も書いて頂くことになります。近く net 上で申し込み可能となるようにしますので、入会しようとする方はそれをご利用下さい。

正会員入会申込書

氏名		英語名	
次の2つのうち会報等を送付先とする方に○を付けてお書き下さい。			
所属先住所	〒		
住所	〒		
専門分野	表 f*より選んで○で囲って下さい f-1, f-2, f-3, f-4, f-5, f-6, f-7, f-8, f-9, f-10, f-11, f-12, f-13, f-14		
E-mail address		電話番号	
		Fax 番号	
会員区分 該当部分にチェック	<input type="checkbox"/> A1 一般1年 <input type="checkbox"/> A3 一般3年 <input type="checkbox"/> S-A1 高齢者又は学生1年 <input type="checkbox"/> S-A3 高齢者又は学生3年 <input type="checkbox"/> 生涯会員		
所属先の施設	<input type="checkbox"/> ビデオ会議可能 <input type="checkbox"/> 遠隔会議可能 <input type="checkbox"/> コンピューターセンター		
所属先の通信システム	<input type="checkbox"/> ISDN <input type="checkbox"/> IP		
所属大学等が機関会員	<input type="checkbox"/> 会員である <input type="checkbox"/> 会員でない		
SCMJのプリント版の購入			
<input type="checkbox"/> 希望 1年に付き 1年会員 6,000円、3年会員 5,500円**		<input type="checkbox"/> 希望しない	
高齢会員を申し込む場合	生年月日	学生会員の場合は在学証を添付	
日付			
私は ISMS 会員になり、国際数理科学協会に送り状に記載された年会費を払います。ISMS 会員として受け取った Scientiae Mathematicae Japonicae のコピーは個人使用とし、機関、大学または図書館やその他の組織の中に置かず、閲覧目的で会員購読することもしません。		署名	

* Notices from the ISMS March 2008 p.25 を御参照下さい。

**ただし、3年間一括の場合は 15,000 円です。なお、来年より会費の改定を計画しております。

この申込みの内容は会との連絡以外には使用いたしません。

Application form for an individual member of ISMS

Family Name		First & Middle Name	
Check one of the following addresses to which "Notices from the ISMS" should be sent.			
Address of your institution (university)	<input type="checkbox"/>		
Home address	<input type="checkbox"/>		
Special fields*	f-1 f-2 f-3 f-4 f-5 f-6 f-7 f-8 f-9 f-10 f-11 f-12 f-13 f-14		
E-mail address		Tel.	
		Fax	
Membership category** (Circle one)	A1, A3, SA1, SA3, F1, F3, SF1, SF3, D1, D3, SD1, SD3, AL, FL, DL		
Check the facilities your institution has.	Conference room(s) for video conference Computer center		
Communication system of your institution	<input type="checkbox"/> ISDN <input type="checkbox"/> IP		
Is your institution (university) an Institutional Member of ISMS?	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No		
I subscribe to the printed version of SCMJ.	<input type="checkbox"/> ¥6,000 (US\$60, €48) per year for those members of A1, SA1, F1, and SF1, D1 and SD1. <input type="checkbox"/> ¥5,500 (US\$55, €44) per year for those members of A3, SA3, F3, SF3, D3, SD3, AL, FL, and DL. <input type="checkbox"/> In case A3, SA3, F3, SF3, D3, SD3, AL, FL, or DL members make the payment at a time in advance, the price for 3 years is ¥15,000 (US\$150, €120).		
For the aged member, write your birth year.		For the student member, student registration certificate should be attached.	
Date of Application			
I wish to enroll as a member of ISMS and will pay to International Society for Mathematical Sciences the annual dues upon presentation of an invoice. Copies of <i>Scientiae Mathematicae Japonicae</i> received as an ISMS member will be for my personal use only and shall not be placed in institutional, university or other libraries or organizations, nor can membership subscriptions be used for library purposes.			
Signature			

* Notices from the ISMS March 2008 p.25 を御参照下さい。

**Notices from the ISMS March 2008 p.28 を御参照下さい。

ISMS (JAMS の継続) 会員募集

ISMS の出版物：ISMS は、創刊より約 60 年、国際的に高い評価を得ている Mathematica Japonica (M.J.) と、その姉妹誌で電子 Journal と Paper 誌とを持つ、Scientiae Mathematicae (SCM) とを発行してきました。両誌は合併して、“21 世紀 MJ/SCM New Series, Scientiae Mathematicae Japonicae (SCMJ)”として、電子版は 2000 年 9 月より発行してきました。印刷版は、1978 年 1 月より、年間 6 冊、700～1200 頁を出版しています。全体として 230 巻を超える、日本で最大量を誇る数理科学の雑誌です。その特長は、下の 1)～7)です。

- 1) Editorial Board には、国内だけでなく、海外 15 カ国の著名な研究者 40 名が参加している。
- 2) 世界の research group に論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editor を窓口として直接論文を投稿できて、迅速な referee 及び出版が得られる。
- 4) 有名な数理科学者の original paper や、研究に役立つ survey が、毎号載せられている。
- 5) SCMJ は、世界の有名数理科学者による、極めて興味ある expository paper を、毎号 International Plaza 欄に掲載している。世界各国の図書館へ、広く配布されている。
- 6) 投稿論文は、accept 後 (又は組版後) 待ち時間 0 で発行されます。
- 7) Mathematical Review, Zentralblatt に from cover to cover で review されている。

ISMS の研究集会：(1)研究仲間がゆっくり時間をかけて発表、討論をする、特色ある参集型研究集会が毎年行われ、非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。(2)ISMS には内外の著名な研究者が多数入っており、近いうちに内外を結ぶ高い level の研究会が online で行われる事を期待している。(本誌 45 号 3p 及び Notices March 2006 9p を御参照下さい)

ISMS の学術賞：会員の優れた論文を広く世界に紹介し、更なる研究を奨励するために、ISMS 賞、JAMS 賞、Shimizu 賞、Kunugui 賞、Kitagawa 賞を設けている。(詳しくは本誌 45 号 2p 会則 13 条を御参照下さい)

< ISMS の会員の特典 > 1. SCMJ 電子版の購読 (print out も含む) 無料。2. SCMJ print 版の少額での購読 (下表 1)。3. Page charge (別刷代金) の discount (下表 2)。

< 機関購読会員の特典 > 1. 機関内の 2 名の方を準会員として会費無料で登録することが出来る。2. 準会員は会員と同じ page charge (別刷代金) の discount を受けることが出来る。

表 1
【雑誌購読費】

	正会員 (1 年)	正会員 (3 年)	機関会員	定価
Print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500* US\$ 55, €44	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320
Online	Free	Free		
Online+print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500 US\$ 55, €44	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320

*3 年会員のみ、雑誌購読費 3 年前分払いの場合は ¥15,000 になります。

著者の方には、SCMJ を 1 冊送料込みで 1,200 円または US\$ 12 で購入できます。

表 2
【ページチャージ】

	ISMS members	Non-members
p	¥ 3,500 (US\$35, € 23)	¥ 4,000 (US\$40, €27)
Tex	¥ 2,000 (US\$20, € 14)	¥ 2,500 (US\$25, €17)
LateX2e, LaTeX	¥ 700 (US\$ 7, € 4)	¥ 1,000 (US\$10, € 7)
Js (ISMS style file)	¥ 500 (US\$ 5, € 3)	¥ 800 (US\$ 8, € 5)

別刷作成について、次の費用の分担をお願いします。原稿の組版についての連絡費、抜刷送料等の事務処理として、一編について ¥1,000、及び上表の各原稿の種類による組版費を請求させていただきます。

(2008 年 Vol.67 から実施)

表 3
【2008 年の会費】

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度 A 会員	¥9,000	US\$ 75, €60	US\$ 45, €36
3 年 A 会員	¥24,000	US\$ 200, €160	US\$ 117, €93
単年度 S 会員	¥5,000	US\$ 40, €32	US\$ 27, €21
3 年 S 会員	¥12,000	US\$ 100, €80	US\$ 71, €57
生涯会員**	¥90,000	US\$ 740, €592	US\$ 616, €493

**過去 10 年以上、正会員であった方に限る。

A 会員は正会員を指し、S 会員は、学生会員と高齢会員(70 歳以上)を指します。

国際数理科学協会

International Society for Mathematical Sciences

〒590-0075 堺市堺区南花田口町 2-1-18 新堺東ビル内

Tel: (072)222-1850 / Fax: (072)222-7987

URL: <http://www.jams.or.jp>